

第4回公民館カフェは、平成26年2月24日に月島区民館で開かれました。今回も、患者さんやご家族、医療者、企業関係者、メディア関係者など、約40名が参加。会場に用意されるお茶とお団子は、カフェタイムだけでなく、開催前の参加者同士の会話もはずませてくれるようです。

今回のスピーカーは、日本代表男子車椅子バスケットボールヘッドコーチの及川晋平さん。第1回カフェで参加者から出された「障害者スポーツの指導者の方の話が聞きたい」というリクエストに応じるかたちで企画され、「変わりゆく障害者スポーツの世界—ロンドンパラリンピックの発見を通して—」と題してお話いただきました。

★発表者プロフィール★

及川 晋平さん 42歳 現日本代表男子車椅子バスケットボールヘッドコーチ。

16歳のとき骨肉腫と診断されローテーションの手術をする。3度の肺転移、手術をし、5年以上の抗がん剤での闘病生活を乗り越える。その後、渡米留学をし、アメリカで車椅子バスケットボールをしながら、文武両道に励む。

1998年シドニー世界選手権、2000年シドニーパラリンピック、2002年北九州世界選手権の日本代表選手。ま癩、年に一度海外のコーチを招待して行う車椅子バスケットボールキャンプ(JCamp)のトータルコーディネーターも務める。また、東京にある車いすバスケットボールチーム「NO EXCUSE」でコーチをする。あらた監査法人に在籍。



お話は、「いつもはスポーツに関する話をスポーツの関係の方に話すことが多いのですが、本日こういう機会をいただいたことは個人的には大変嬉しく思っています。」という及川さんの挨拶から始まりました。高校生時代の闘病、車椅子バスケットボールとの出会い、アメリカ留学の話と進み、いよいよパラリンピック日本代表チームの一員としての活動の話題。講演の中でロンドンパラリンピックのテレビコマーシャル「Meet the Superhumans」（イギリス・チャンネル4製作）のビデオが紹介されましたが、これはパラリンピック選手の「超人」ぶりを描き、同大会の観客動員に大きく貢献したCMです。

パラリンピックはこういう集団の世界です。僕も義足になって、どうしても前向きになれないというようなこともあった中で、憧れてしまうと言うか、自分がこうなっていたら本当にすごいなと。かなり突き詰めてやれば、夢のような、かっこいいことが実現することができるのではないかと本当に思えるような場所があると気づかされたのがパラリンピックでした。＜中略＞ 足がなくても、手がなくても、眼が見えなくてもどうでもいい。その世界はみんなで闘って競い合っている中なので別にそこをexcuseする必要はないし、なれ合う必要もない。本当に純粋にスポーツとか競技を闘える場所があったということが、たいへん印象的で、僕の自信にもつながりました。

ロンドン大会開会式の盛り上がりや選手村の様子を参加者の視点から生き生きと語る及川さんのお話、カフェ参加者も引き込まれました。続いて、車椅子バスケットボールのルールや日本代表チームの成績、海外プロリーグの話などがあり、リハビリの延長線から競技スポーツにまで広がっていく現状も語られました。

最後に及川さんは、スポーツの魅力について「障害とはちがう地平でつくる文化」だと表現されました。

いろいろな不安を抱えながら、風邪をひいたり痛みがあったりすると「もしかして」と考えている毎日だったのが、唯一スポーツをしている時は夢中になり、何も考えず、100%楽しんでた。だからこそ夢中になってしまい、そういうところでパラリンピックまで登り詰めて行こうとしてしまったという気がします。

今回のカフェではスポーツがキーワードだったので、「スポーツをしろ」とは言いませんが、汗をかくということは感動でした。同じ汗でも冷や汗や脂汗、暑くて出る汗はそれまでもありました。ただ本当に新鮮なスポーツの汗は少しちがいます。歩いても車椅子バスケットボールをやっているものですが、運動をして汗をかくということは非常に快感です。

そこに仲間がいます。僕も自分と同じ境遇の人にはなかなか出会えません。ただ車椅子バスケットのチームでしたから、それぞれの障害も理解していかないとチームスポーツは成り立たないのですが、そういう仲間ができた。初めてこいつは仲間だなと思える人間は、バスケットをやっている時のチームメイトでした。そこからまた文化とか、習慣とか、病気とは縁のないカルチャー、コミュニティというものが生まれてきて、自分独自の空間ができたというのは、とても良かったと思います。

発表後のお茶タイムでは、トップアスリートのトレーニングのこと、病気や障害があっても身近にスポーツを楽しむことの意味、障害者スポーツに対する日米の違い、患者会活動に身体運動をとりこむ可能性、パラリンピック東京大会を盛り上げる方法など、さまざまな観点から質疑応答とコメントが続きました。

終了後アンケートでは、「東京パラリンピックへの関心が高まった」「初めて車いすバスケのお話を聞き、“超人”であることに感動した。」「スポーツが不安を忘れさせてくれたという言葉が胸に響きました。」「スポーツの汗が他の汗と違って気持ち良いこと、気持ちわかります。」「プロのアスリート集団へのリスペクトを持った。」などの意見が寄せられました。

今回のカフェも、参加者にとって実に多くの発見がある時間になったと思います。次回は5月28日に「外見ケア」をテーマにして開催します。また月島でお会いしましょう！

